

## 御生誕祭 理事長お話

本格的な冬の到来を迎えましたが、本日は全国各地より、ようこそ聖地にご参拝くださいました。

私達は、明主様との出会いを通して、本当の親であられる神様を知ることができました。

私達は、明主様によって、本当の故郷である天国を思い出し、自分がどこから来たのか、そして、どこに帰らせていただくのかを知ることができました。

そして、今私達は、教主様のご教導により、神様の本当の親心である無量無辺の愛と赦しとみ恵みにあふれる、光輝く分<sup>わけ</sup>霊<sup>みたま</sup>という素晴らしい霊の体を、自らの内側にいただいていたことに目覚めさせていただきました。

本日は、こうした「天国の福音」に強く結ばれたものとして、全国の皆さまとご一緒に、心からの感謝をもって神様をお讃え申し上げ、そして、明主様にご挨拶申し上げたいと存じます。

「御生誕祭」、誠におめでとうございます。

今年も、世界救世教①之光教団の信徒である私共は、天地万物一切の創造主であり、私共の本当の親であられる主神のお計らいのもと、明主様と共にあるメシアの御名にあって、神の子たるメシアとして「新しく生まれる」ための養いの中に、一年を通じて置いていただきました。

そうした中で、私共は、教主様のご教導に与り、明主様がご在世中の最後にお示しになった“神の子たるメシアの道、こそが、全てのみ教えの神髄であり、み教えの源である主神のご意志であることに目覚め、その象徴とも言える「大光明」のご神体奉斎の道を全ての信徒家庭に許され、また、「メシヤの御神」という真に尊き御名をもお受けさせていただいた一年となりました。

私は、こうした本年を振り返り、私共が「メシアの御名」にある主神の赦しをお受けし、“神の子たるメシアの道、”を歩ませていただくために、主神が全人類の模範とすべき明主様をこの地上に遣わせてくださったことに思いをはせて、心いっぱいの感謝を添えて、明主様のご生誕をお祝いさせていただきました。

教主様には、本年も、年頭に「新年ご挨拶」を賜り、公務誠に多端の中を、聖地における春夏秋の各大祭にご出座いただき、お言葉を賜りました。

さらに、「京都・滋賀布教区信徒大会」にご巡教くださり、また、各種懇談会にもご臨席いただき、親しくご教導賜りました。

このように、教主様には、まゆみ奥さまと共に、全ての信徒をいつもお心にか

けてくださり、愛情あふれるお導きをいただきましたこと、皆さまと共に心より感謝申し上げたいと存じます。

そして、教主補佐の岡田真明様には、教主様のご出座になる場にご臨席くださるとともに、さまざまな年代の専従者との懇談会にご出向くださるなど、マミ奥さまと共に温かいお心を向けてくださいましたこと、心から御礼申し上げます。

今年、めでたくお生まれになったご息女〇〇様のさらなる健やかなご成長を、皆さまと共に楽しみにさせていただきたいと存じます。

また、本日受付でお配り致しました「おことば」と題された小冊子は、いづのめ教団を通じて、世界中の信徒に配布された教主様のお言葉です。

「真善美」新年号と一緒に布教所にお届けさせていただくことになっております。

私は、このお言葉の中に、常に「明主様の真実」を求め、世界全人類の救いをお祈りくださっている教主様の篤いお心を感じさせていただきました。

私共は、このお言葉を大切に受け止め、世界中の信徒の皆さまと共に、教主様と一つ心でこれからも歩ませてさせていただきたいと存じます。

さて、本日私共は、明主様がお詠みになった三首のお歌を奉唱させていただきましたが、私は特に三首目のお歌、

「ハレルヤの歓呼の渦の直中にただなか静かにあも天降るメシヤキリスト」というお歌を通して、とても大切なことに気付かせていただきました。

私は、毎年「御生誕祭」を迎えるたびに、明主様がこの地上にお生まれになった明治15年12月23日というご生誕の日に思いを致してまいりました。

しかし、私は、本日祭典で拝読した御言葉の中にありましたように、明主様のご自身のことを「生まれたての赤ん坊」とおっしゃり、メシアとして新しくお生まれになったことをお示しくくださった御言葉をお受けしたものとして、この明主様の「第二の御生誕」とも言える御言葉に、果たしてどれほど心に向けてきただろうかと思わせていただきました。

私は、この昭和29年6月5日の御言葉について、明主様の「もう一つの御生誕」として受け止めさせていただくことが、人類の救いにとって極めて大切なのではないかと、今強く思わせていただいております。

私は、この「メシヤ降誕」の御言葉に結ばれた人類の一人として、ましてや信徒の一人として、明主様が仰せになった「ハレルヤの歓呼の渦の直中に」という歓呼・歓喜の思いで、この御言葉を受け止めていなかった自らの姿に気付かせていただきました。

明主様は、この御言葉の中で、『メシヤ降誕』『メシヤが生まれた』『言葉だけでなく事実がそうなんですよ』『私も驚いたんです』と仰せになっています。

ですから、私は、明主様が『メシヤ降誕』について、神人合一であられたご自身でさえ驚いたとおっしゃるほどの極めて重大な出来事であることを、私自身にお伝えくださっている御言葉であると受け止めさせていただきました。

そして、明主様は『生まれ変わるといふんじゃないですね。新しく生まれるわけですね』とおっしゃり、続けて、『今度のことについては、もう奇蹟っていうどころじゃない、奇蹟以上の奇蹟』と仰せになり、さらに、『私が出てはじめて人類は救われるのです。たいへんな事件なんです』と、脳溢血の病の中、当時の教団幹部を碧雲荘に集めてご発表になりました。

その後、明主様は、6月15日には「メシヤ降誕仮祝典」を挙行され、全国から集まった約一万人の信徒に「メシヤ降誕」の事実をお伝えになり、多くの信徒と共に祝いされました。

また、お歌にも、

だいメシヤ

「大救主の御名は最後の世を救ふ尊き御名なり心せよかし」

と詠まれました。

私は、こうした事実を、また、明主様が私共に“心せよかし”とお歌に詠まれた「メシアの御名」を、明主様の信徒としてどれだけ大切に受け止めてきただろうかと思わせていただきました。

また、今月の「月次祭」にてお伝えしましたように、明主様がご在世中の最後にお示しになられた教団は、「世界救世教」です。

私共は、明主様が「世界救世教」を開教されたことの御神意について、また、「メシヤ降誕」「新しく生まれる」とのみ教えと御事蹟について、さらには、明主様がお示しになられた「メシアの御名」「メシアの救い」「メシアの力」「メシアの教え」ということについて、教団としてその真意を究め、目覚めさせていただく時を今迎えているのではないのでしょうか。

私は、明主様の全てをお受けしようとしてされている教主様のご教導のもと、まず自らが「メシアの御名」にある赦しと救いを全身全霊にお受けし、そして、一人でも多くの人に宣べ伝えることが、明主様から私共世界救世教信徒に託された最も大切な使命であると信じています。

私共は、真の主神の子たるメシアとして新しくお生まれになった“明主様の真実”が、“本当の救い”が、教団浄化を経て、明主様御昇天後初めて、今教主様によって知らされ、私共が人類に先駆けて、「全く新しい信仰」である“神の子た

るメシアの道、を歩ませていただいていることに心から感謝申し上げ、教主様に続いて、明主様のご意志をたとえ一端でも継がせていただくものでありたいと存じます。

そのために、私共⑤之光教団の信徒は、主神が、「メシアの御名」にある赦しをお受けになった明主様を通して、人類全てを神の子たるメシアとして新しく生まれさせるといふ、明主様のご在世中の最後に新しくみ教えくださった本当の「天国の福音」を、心の中心にお受けして進ませていただきたいと思います。

私は、私共が人類の先駆けの一人としてこの道を進むことによって、主神が顕されたあらゆる宗教を包含した万教帰一の世界が生まれ、全人類がメシアであられる明主様を模範として、神様の子供たるメシアとして「新しく生まれる」といふ、人類にとって最大のみ恵みを賜ることになると固く信じております。

ですから、私は、主神が今大いなる赦しをもって、教主様のご教導を通して、「世界救世教<sup>メシヤ</sup>」開教や、明主様の「もう一つの御生誕、とも言える「メシヤ降誕」に込められた、「明主様の全人類へのメッセージ」に気付かせてくださったことは、世界救世教の信仰にとってこの上もなく重大なことであると受け止めさせていただいております。

また、最近私は、来年の「教団方針」についての学びを深めさせていただく中、明主様が「世界救世教<sup>メシヤ</sup>」を開教されてからのみ教えや御言葉の中に、度々ご自身のことを「私は、メシヤ教教主岡田茂吉であります」と仰せになり、ご自身のことを「教主」と名乗っておられる事実に触れさせていただきました。

このように、世界救世教における教主の座は、明主様によって定められたものであることは、間違いのない事実であると存じます。

そして、今私共は、明主様がお示しになった「地上天国建設」という御言葉に込められた本当のみ心と、その源にある主神のご意志を誰よりも強く求められ、なんとしても受け継ごうとされている教主様によって、明主様のご在世中の最後にお示しになった「神の子たるメシアの道、を、お受けさせていただいております。

私は、今も生きてお働きくださっている明主様が、ご自身のお定めになった教主の座を通して、私共信徒に大切なみ心をお伝えくださることを、明主様の信徒として決して疎かにしてはならないのではないかとおぼやかせさせていただいております。

そのために、私は、教団を代表する執行部が、神様に対する謙虚な心を自らに確認し、教主様と一つ心で歩ませていただけるよう、ありとあらゆる努力を惜しまないことが、教団執行部の大切な信仰上の務めであると思っております。

私は、この務めをもし疎かにするならば、教団として、今も生きてお働きくだ

さっている明主様のみ心の本当の受け皿にはなり得ないものと、固く信じて進ませさせていただき決意を、本日の祭典を通して、神様にお誓い申し上げました。

まもなく迎える新たな年におきましても、燦然と輝く「大光明」のご神体のもと、「メシヤの御神」の御名を奉称し、全てを主神に委ねさせていただき「想念の御用」をもって、一人でも多くの方に本当の「天国の福音」をお伝えしていく「全く新しい布教」の道を、「真善美」配布を力とする「会う、聞く、浄霊」を中心に、明るく楽しく心裕かに歩ませていただきましょう。

終わりに、全国の専従者、信徒の皆さまには、今年もご一緒にありがとうございました。

新たな年におきましても、皆さまの日々の生活の上に、一年を通じて大いなるみ恵みと安らぎを賜りますようお願い申し上げます、「御生誕祭」の挨拶とさせていただきます。

どうか良いお年をお迎えくださいませ。

ありがとうございました。